

福岡県高等学校簿記競技会新人戦規定

- 1 目 的 簿記教育の振興を図り、商業教育の発展に寄与する。
- 2 日 時 商業オリンピックの開催と同一日とする。
- 3 会 場 福岡県高等学校商業教育研究部会第2分科会事務局が指定する。
- 4 参加資格 福岡県高等学校商業教育振興部会の会員在籍生徒であること。
学年は1・2年生とする。
- 5 参加人数 人数制限は設けない。但し、団体出場は3名以上とする。
- 6 出題範囲 「簿記」「財務会計Ⅰ」に関するすべての内容を範囲とする。
- 7 時間および
出題形式 時間は90分とし、下記の通りとする。
前半（仕訳部門）45分は仕訳の問題とする。
[出題範囲] 全商3級15題、全商2級15題、全商1級（会計）
10題、競技会レベル10題の計50題
後半（決算部門）45分は決算の問題とする。
[出題範囲] 全商2級程度より決算書1問、日商2級程度より決算
書1問、競技会レベルより精算表1問の計3問
- 8 成 績 正確に、迅速に、整然と記帳・処理されているかを、審査基準に従
って審査し、総合得点で決定する。
- 9 審 査 審査委員会を設けて審査する。
- 10 順位・表彰
ア. 団体の部
同一校より3名以上の選手が出場している場合に限り、得点上位
3名の合計点により、1位～6位までの6校を表彰する。
※同点の場合は、下記ウ. の要領により順位を決定する。
イ. 個人の部
1位～10位までの10名を表彰する。
※同点の場合は、下記ウ. の要領により順位を決定する。
ウ. 同点の場合の順位決定要領
ア. の得点上位3名の合計点により、以下の(1)～(4)により順位
を決定する。なお、個人の部においても、団体の部に準じて行う。
(1) 仕訳部門の合計得点
(2) 問題番号2（決算部門1問目）の合計得点
(3) 問題番号3（決算部門2問目）の合計得点
(4) 審査委員長の判断による
- 11 費 用 参加費は無料とする。
- 12 申込期日 福岡県高等学校商業教育研究部会第2分科会事務局が指定する日
- 13 申 込 先 福岡県高等学校商業教育研究部会第2分科会事務局

以 上

福岡県高等学校簿記競技会新人戦規定実施細則

1 答案作成上の注意事項

- ①筆記用具は黒と赤のボールペン、並びに定規を使用する。
但し、ボールペンは消しゴム等で消えないものとする。
- ②原則としてそろばんまたは電卓を使用するが、電卓を使用する時は、次の条件を満たすものとする。
 - イ 他に迷惑をおよぼす音を出さないこと。
 - ロ 電池を内蔵しているもの。
 - ハ 記録式電卓でないもの
- ③下敷きを使用するときは監督者に許可を得ること。
- ④数字は円以上3けたごとにコンマ(,)で区切ること。
但し、位取り線のある場合は、コンマを必要としない。
- ⑤誤記の訂正は、文字は誤字だけを訂正するが、数字は全数字を訂正すること。
なお、訂正については定規を使用し二重線を引くこと。但し、訂正印は省略する。
- ⑥使用する勘定科目については、科目が指定されているときのほかは、現行教科書に用いられている科目で同一内容を表すものであればよい。
- ⑦次のような場合は誤答となる。
 - イ 誤字・脱字がある場合。
 - ロ 漢字で書くべき勘定科目等をかなで書いた場合。
 - ハ 勘定科目を略称で書いた場合。

2 答案審査について

- ①答案の審査は、審査委員会でおこなう。
なお、審査委員会は福岡県高等学校商業教育研究部会第2分科会役員および当日本大会に参加した引率者により構成される。
- ②審査委員長は、福岡県高等学校商業教育研究部会第2分科会長が務める。
- ②答案の審査は、審査委員長指示のもと分担して審査するものとする。
- ③答案の審査に疑問が生じた時は、審査委員会に届け、審査委員長を中心に検討し決定する。

簿記競技会採点内規

1. 全般

(1) 訂正について

ア 訂正は、定規を使用し、赤の二本線を引くこと。フリーハンドによる訂正や一本線は不可とする。

イ 数字の訂正は全数字を訂正し、文字の訂正は1文字のみの訂正でも構わない。

ウ 訂正は、当該の解答欄内において訂正すること。

エ 解答を訂正（赤の二本線による）したが、解答欄内に記入できないときは、枠外に解答してよい。ただし、問題番号を記入するか、枠外に矢印で引っ張り訂正するなど、いずれの問題の解答であるかがわかること。

オ 以下の様な訂正は、誤答とする。

(ア) 解答欄を間違えたとき、矢印によって解答欄を入れ替えて訂正すること。

(イ) 解答欄を間違えたとき、問題番号を消して書き直すこと。

(2) 文字、コンマ、書体について

ア 誤字や漢字で書くべき勘定科目などをかなで解答した場合は、誤答とする。

イ コンマと小数点の区切りが無いときは誤答とする。ただし、コンマと小数点の違いは厳密には問わない。なお、位取りのある解答欄の場合は、コンマは不要とする。

ウ 書体については、基本的に楷書とするが、多少の続け字は可（正解）とする。ただし、判断が困難な書体については、審査委員長が審査委員会と合議の上決定する。

エ なぞり字は、誤答とする。

(3) その他、判断しづらい解答については、審査委員長が審査委員会と合議の上判断する。

2. 仕訳の問題

(1) 勘定科目については、指定されたものを使用すること。

3. 帳簿の問題

(1) 採点基準の線上の罫線を定規で赤記していなければ、その解答は誤答とする。なお、罫線の採点箇所は1ヶ所見ることとする。罫線の採点箇所が、採点基準に設けられていない場合、あるいは多数設けられている場合は、審査委員会で1ヶ所を決める。

(2) 仕入帳、売上帳の返品、値引きは赤で記入すること。ただし、元丁欄は黒でも赤でもよい。

(3) 「//」は、日付と借または貸の欄、@、￥、個を認め、他は一切認めない。

(4) 普通仕訳帳、特殊仕訳帳、総勘定元帳への記入は、日付が前後してもよい。

4. 決算の問題

(1) 当期純利益、売上総利益などは赤で書かなくても正解とする。

（参考）次のような訂正は、誤答（不正解）となります。

矢印で解答欄
を入れ替える。

	借	方	貸	方
1	現	金 100,000	売	上 100,000
2	買	掛 金 200,000	当	座 預 金 200,000

問題番号
を訂正する。

4 3	仕 入 210,000	買 掛 金 200,000 現 金 10,000
4	現金 70,000 備品減価償却累計額 400,000 固定資産売却損 30,000	備 品 500,000

解答欄全体を“×”と大きく消去すること。

※記入できないときは、枠外へ解答してよいが、二本線で訂正していない。

4 備品減価償却累計額 400,000 / 備品 500,000
固定資産除却損 170,000 / 現金 70,000

問題番号を
訂正する。

~~【5】~~

1	2	3	4	5
¥ 10,000	¥ 20,000	¥ 30,000	¥ 40,000	¥ 50,000

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現 金	100		50				150	
当 座 預 金	300			50			250	
受 取 手 形	50						50	

矢印で解答欄
を入れ替える。